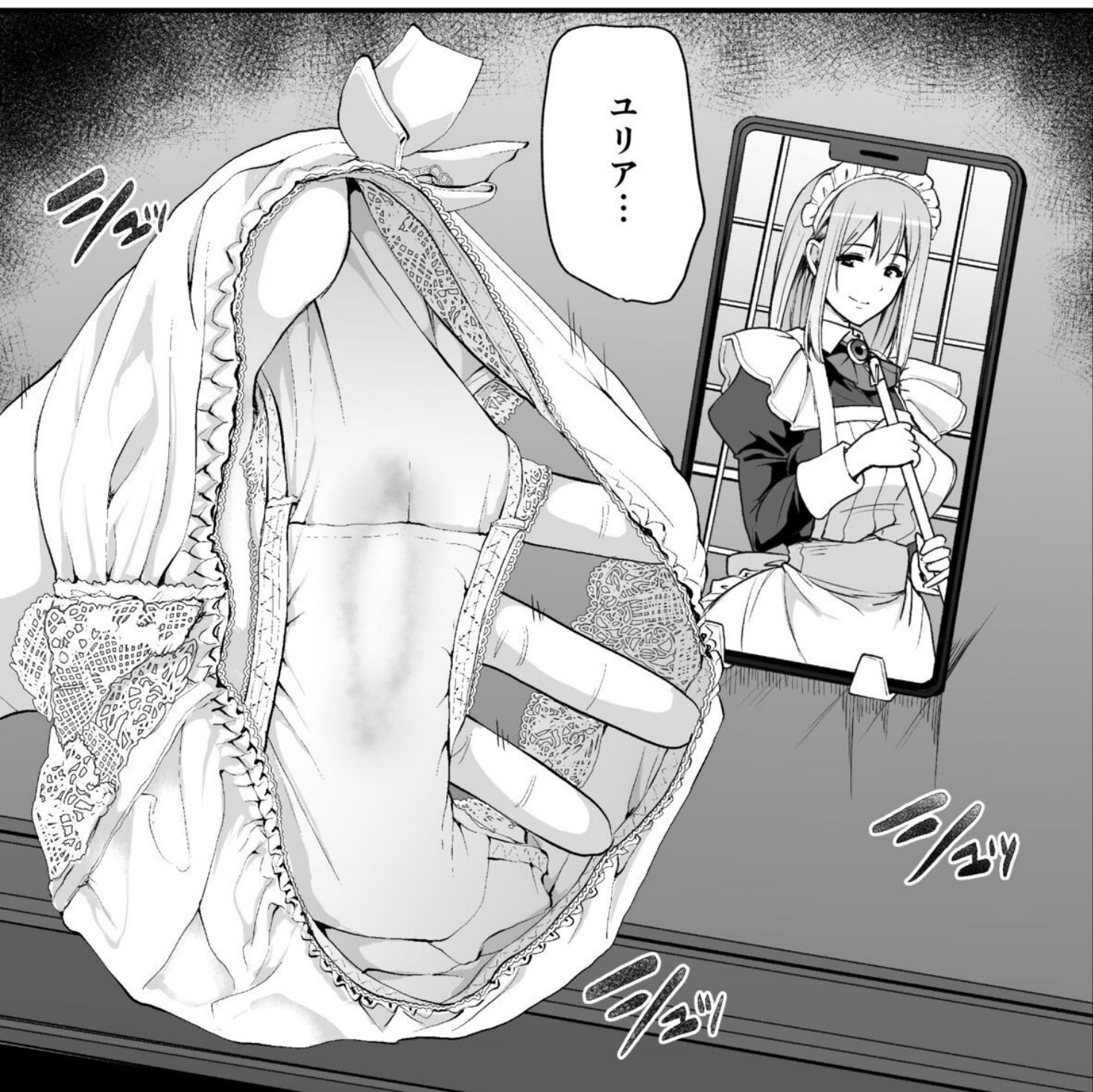




淫靡に薫る
メイドの花弁が
僕を今宵も狂わせる。





ユリアの…

アソコが…



ユリアの…

アソコのカタチ…



好きだ…
ユリア…

ユリア…

ああ…

ユリア…
ユリア…
ユリア…!!

好きだ…
好きだ…

あ…



また…

やってしまった…



はーっ

はーっ

はーっ



ダメだ…
こんなことしてちゃ…

こんなの…
好きな女性に
していいことじゃない…

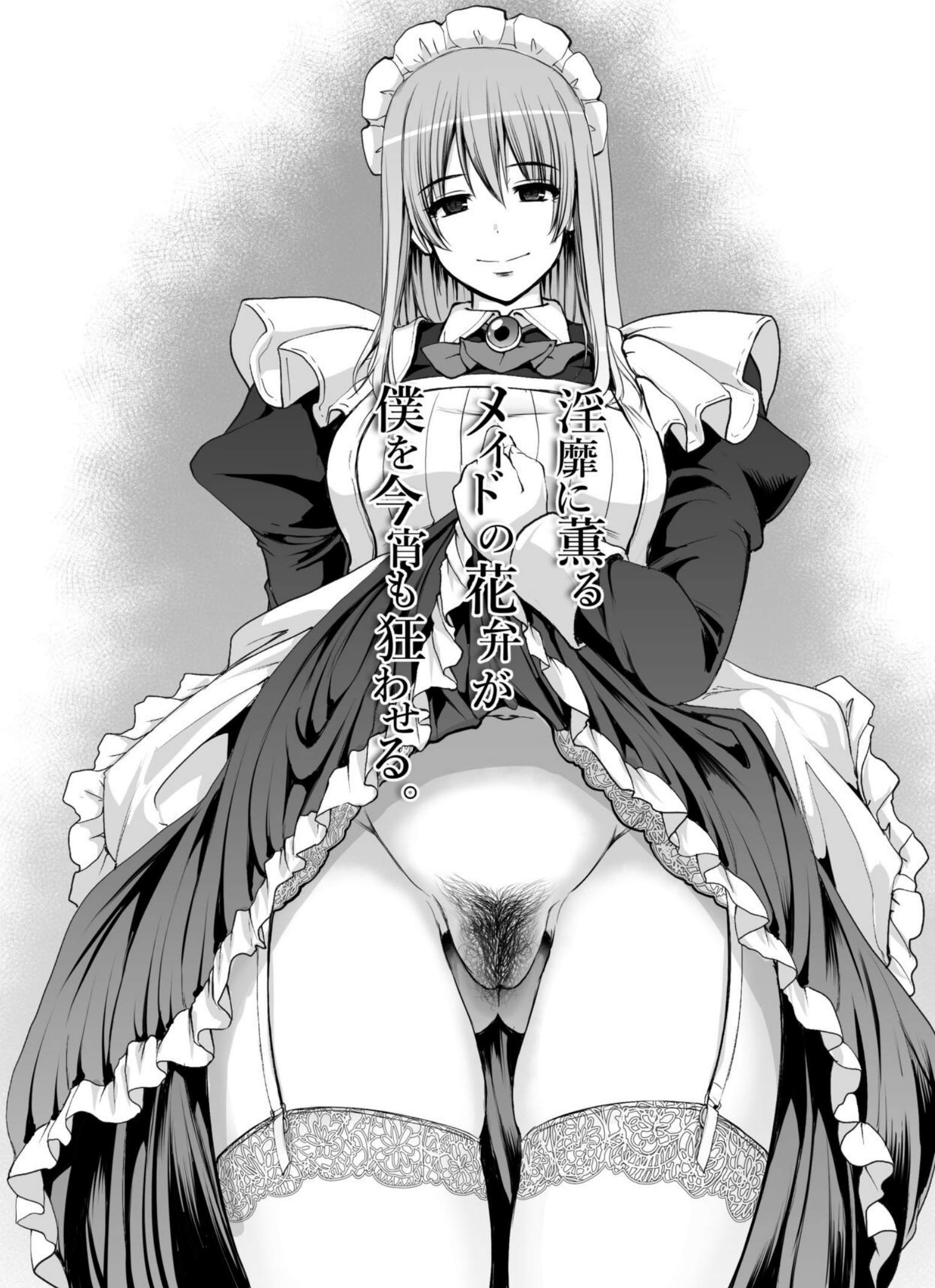


明日こそ…
ちゃんと伝えよう…

僕はユリアのことが…



本気で好きなんだ…



淫靡に薫る
メイドの花弁が
僕を今宵も狂わせる。



若様のお気持ち…
とても嬉しいです…

私ごときに
好意を持って
頂けるなんて…



ありがとうございます
若様…



そ…そんなの
関係ないよ…

僕は本気で…
ユリアの事が…

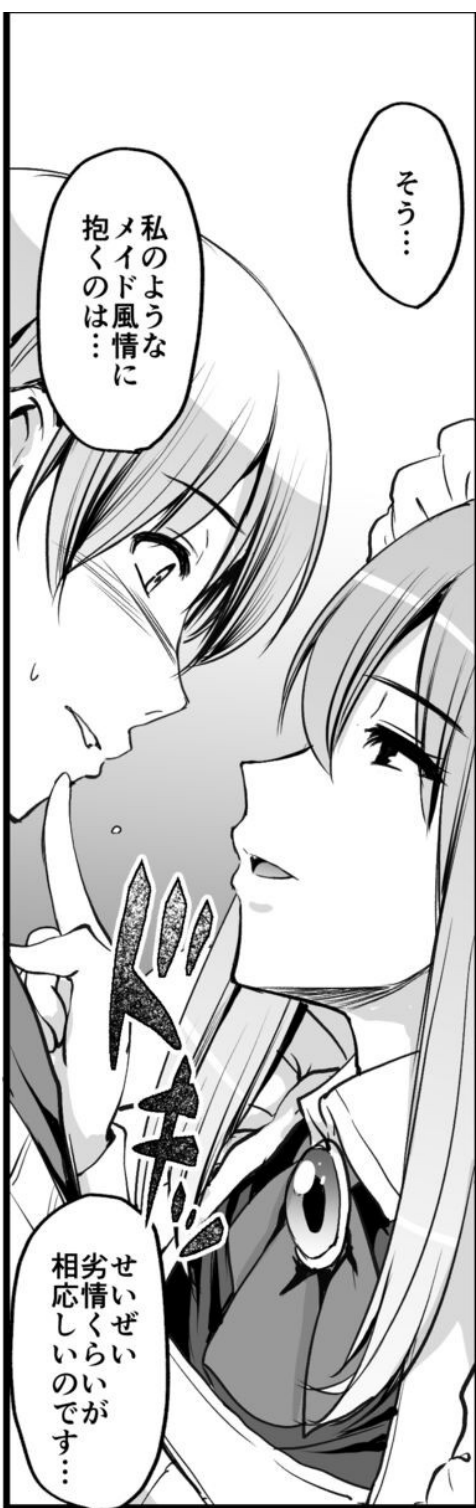


…ですが
私は所詮が
メイドの身分です

若様との
お付き合いなど
到底許される身では
ありません

僕より少しだけ
歳上のユリアは…

諭すように
そう答えた…



私のような
メイド風情に
抱くのは…

そう…

せいぜい
劣情くらいが
相応しいです…



それ以上は
いけませんよ
若様

若様だって
本当はわかっ
ているのでし
ょうか？

高貴な若様
が
端女に抱くべ
き
感情ではあり
ません…

メイドに
恋心を抱くな
んて
許されないう
ことくらい…



ちゃんと
知ってますよ…

若様が毎晩
私の汚れ物を
お部屋に持ち
出して
いらっしやる
こと…

!!



いいんですよ…
若様も男性
なので…

私の下着を
何に使ったのか？
なんて野暮な質問は
いたしません…



そ…
そんな…

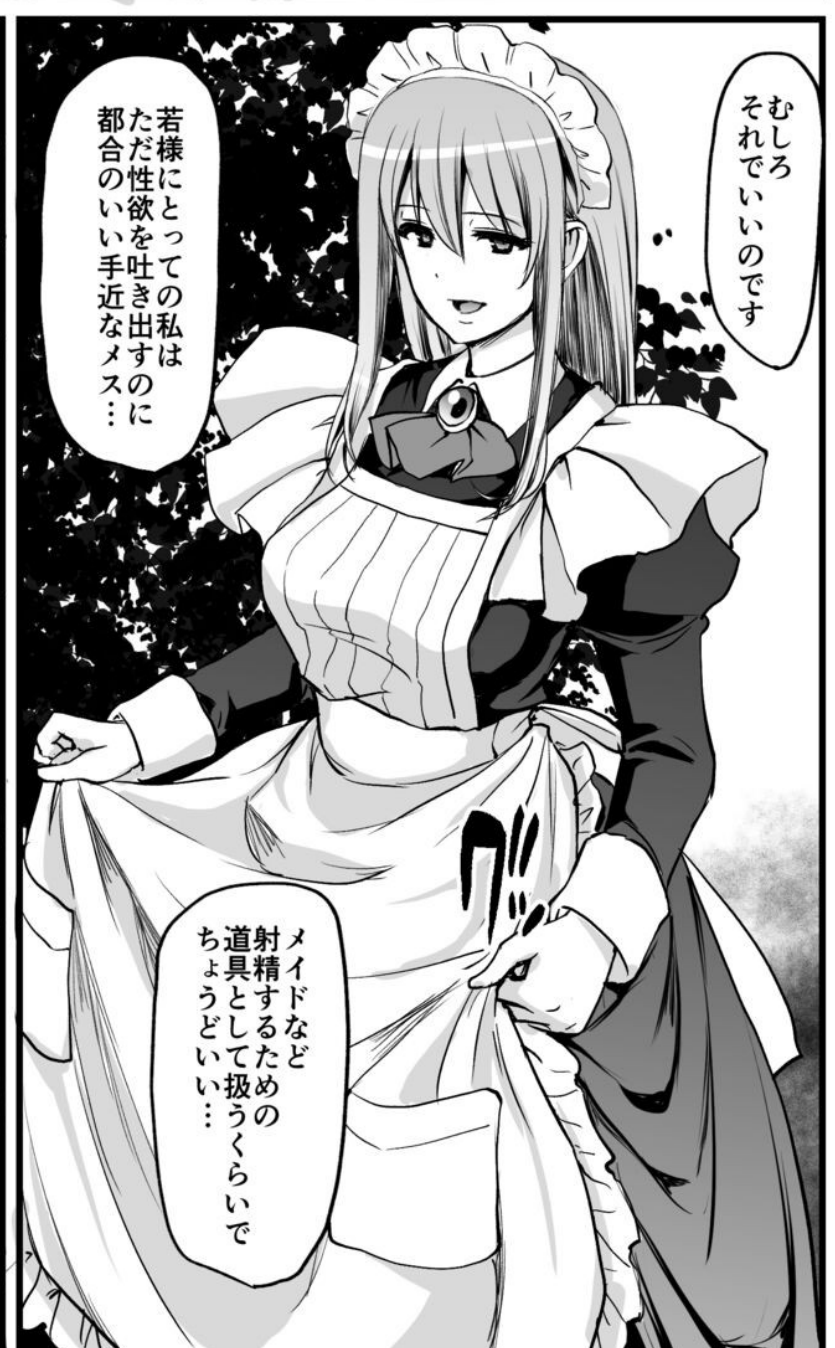
洗濯室の隣は
私の部屋ですよ

気が付かないワケが
ないじゃありませんか



若様は決して…

私と
恋仲になりたいのでは
ありませんよ…



むしろ
それでいいのです

若様にとっての私は
ただ性欲を吐き出すのに
都合のいい手近なメス…

メイドなど
射精するための
道具として扱うくらいで
ちょうどいい…



若様は
本当はただ私と
セックスが
したいのです…

想像して
いたのでしょ…？

毎晩…毎晩…



この汚れた布が
包んでいた…

私のおまんこ
の女性器を…

そんなっ…
僕は真剣に…

ええ
若様のお気持ちは
しかとお受けしました

ですが私には
そのお気持ちは
お答えすることは
できないのです

ならばせめて
心ではなく身体を
お捧げしようという
私なりの若様への
愛情と忠誠心で
ございます

メイドの私など
所詮この薄汚れた
布切れと一緒に…

ただの
モノなので…

気持の整理が
できたら…

いつでもセックスを
お申し付けください…

喜んで若様の
初めての穴と
なりましょう…

さあ若様…

まずは手始めに
私を性欲処理の道具として
扱って見せてください…

たぎった性欲を私に
叩きつける姿をどうぞ
見せてくださいませ…



お恥ずかしながら
実は私…
昨晩自慰行為に
耽っておりました…

下着の上から
クリトリスを指で
激しくこすり…
アクメに達して
しまいました…

ふん

ふん



いかがですか
若様…

今日の私の
股布の薫りは…

ふん



今日は有り難くも
こうして直接私を
オナペットにして
頂いておりますし…

せっかくですから
ご覧になって
頂きましょう…



それに今朝は朝から
少し忙しかったので…

汗の匂いも
強いかもしれませんが…

愛液や下り物の放つ
メスの薫りに
お小水や汗の
ツンとした匂いが混じる…

浅ましいメイドの
股布らしい淫臭は
強烈な淫臭は
お気に召しました
でしょうか…?

ふん

ふん

ふん

ふん



そんな品のない
淫臭を漂わせる
卑しいメイドの
女性器を…

残り香を嗅ぎながら
若様が何度も想像した
私のおまんこを…

自然のままにだらしく
びっしりと生えた陰毛を…

そしてこれから
若様の所有物となり
自由に精を吐き出していい
メスの生殖器を…



あらあら若様…
途端にお手々の上下が
激しくなつて…

そんなにも息荒く
股布の匂いを
吸い込んで…

この光景を
お気に召して
頂けたのですね…

若様の所有物として
大変光栄です



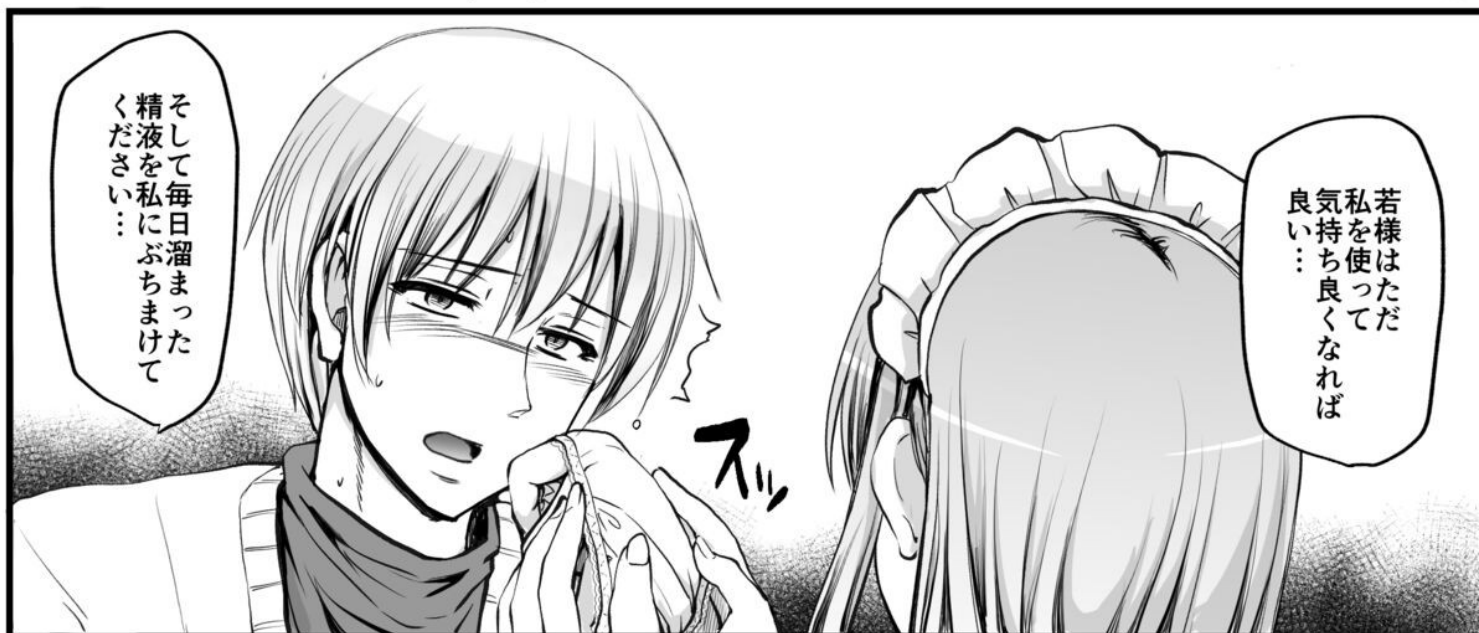
メイドである
私の気持ちなど…

そんな余計な事は
考える必要
ありません…



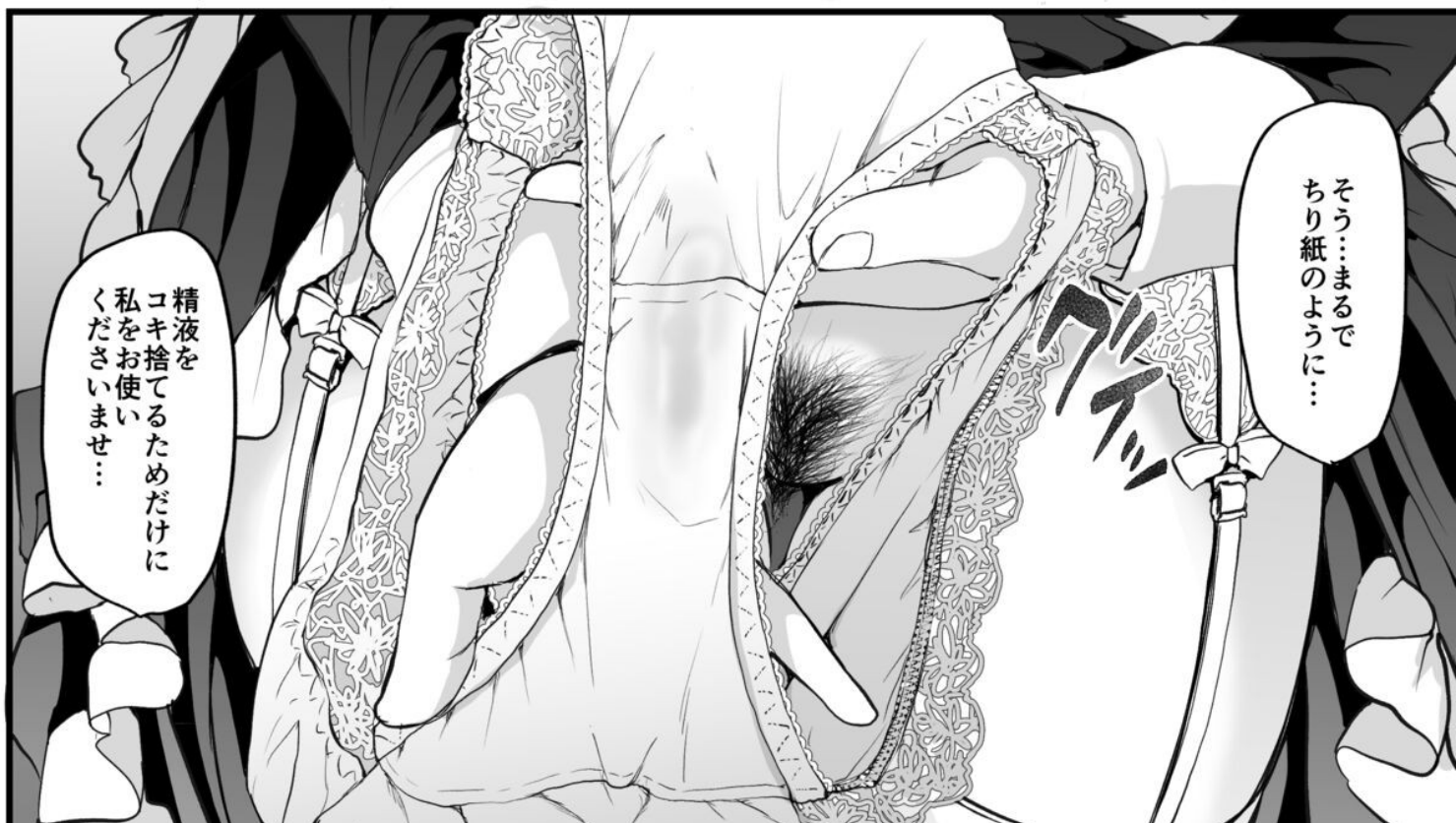
若様がお望みなら
いつでも…

ここを使って
いいんですよ…



そして毎日溜まった
精液を私にぶちまけて
ください…

若様はただ
私を使って
気持ち良くなれば
良い…



そう…まるで
ちり紙のように…

精液を
コキ捨てるためだけに
私をお使い
くださいませ…



好きな女性の目の前で
自慰行為を見られながら
好きな女性の下着に
射精する…

突然のこの倒錯した
シチュエーションに…

いつも清楚で
知的なユリアが
流暢に発する
淫語の数々に…

混乱し圧倒されながらも
身体は性欲に正直で…



さあどうぞ…

私に勘付かれるのを
気にせずコレを存分に
汚してみたかった
でしょう…？

見せてくださいませ…
間接膣内射精を…

この汚れた股布の上で
混じり合わせましょう…
若様の体液と私の体液を…



僕はたまたま
ユリアの下着の股布に
射精した…



すごいですね…

こんなに
たくさんの射精を
して頂けて
光栄です…



嬉しいです…
若様…

ユ…ユリア…
その…!

こんなこと…
僕本当は…!

私とのセックスを
想像して…

私のことを考えて…

気持ちよくなって
くださったのですね…



ユリ
アが…！



僕の精液が
付いた下着を…！

これからは毎日
遠慮なく私を
性欲のはけ口として
お使いください

もちろん：
セックスを
お申し付け下されば
喜んでお相手致します

私は若様の
メイドなのですから…

もしかしたら…
ユリアも
僕のが好きで
身分違いの恋を
諦めるために…

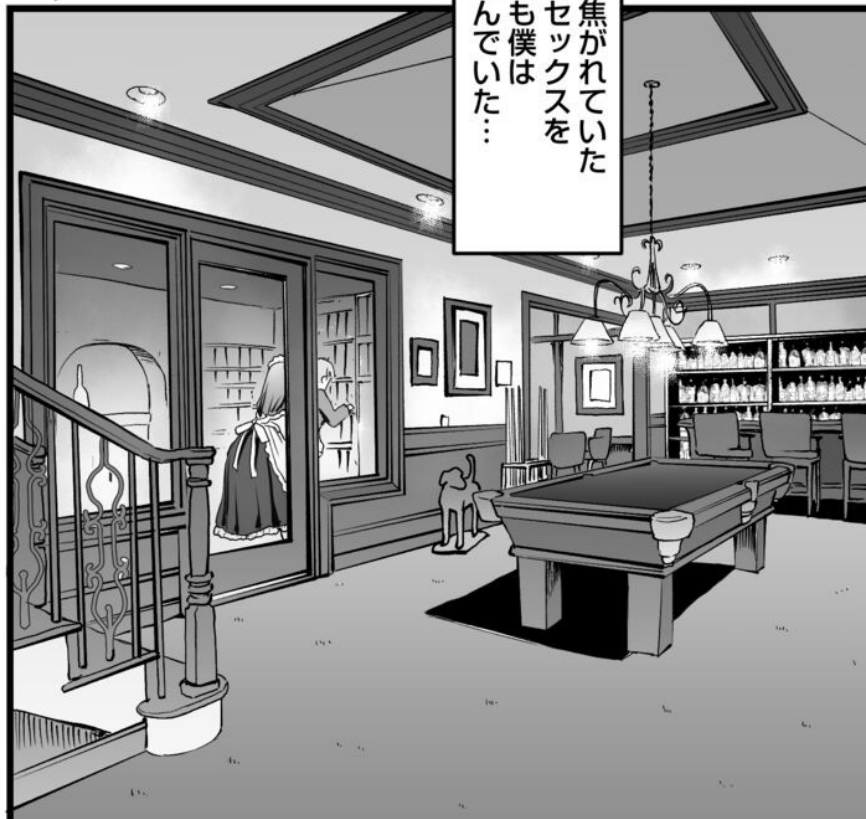
所詮僕の目的は
身体目当てなのだ
と思込もうとして
いるんじゃないか…

僕を試して
いるんじゃないか…

そんな恥知らずで
うぬぼれた考えを
どうしても
捨てきれなくて…

あんなにも焦がれていた
ユリアとのセックスを
目前にしても僕は
二の足を踏んでいた…

例えばそう…
こんなところで…



仕事をしている私のスカートをまくり上げ下着を乱暴にずりおろし...

こんな風に私の腰を掴んで...

後ろから好き勝手に私のおまんこを使おうとだっつて若様にはできるのですよ

私の大きなお尻に若様がパンパン腰を打ち付けるうち...

愛液にまみれた結合部からとつてもいやらしい香りがこの狭いワインセラーに立ち込めるのです...

仕事中の汗ばんだおまんこの匂いと興奮して白濁した膣液が混じり合った匂い...

こんな発情したメスの匂いを嗅ぎながら...

若様はご自分の欲望のままに腰を振って...

このたくましく屹立したペニスで私の膣内を好き勝手にかき回し快楽を貪る...

ほおら想像してください...

こうして私の愛液に塗れた膣口を若様のペニスが出入りするたび...

『ああん♡ああん♡あん♡あん♡』

『若様のおちんぼ気持ちいいですう♡あん♡あん♡ああん♡』

私は若様の射精を促すように甘い嬌声を上げるのです...



呼吸をするたび
私の下着の匂いで：
おまんこの匂いで：
鼻腔からオスの脳を
刺激され：

交尾を渴望する
若様のペニスから
溢れ出した先汁で
私の手はまるで
おまんこのように
ヌルヌルです：

ほおら若様：
これがおまんこ
ですよ：



私とのセックスを想像して
私のお手々マンコで
蕩けるそのお顔を私に
よおく見せて下さいませ：

やはり
お顔が見える
こちら向きで
いたしましょう：



さあどうぞ：
若様専用の
オナホおまんこに：

たっぷり
中出しして
くださいませ：



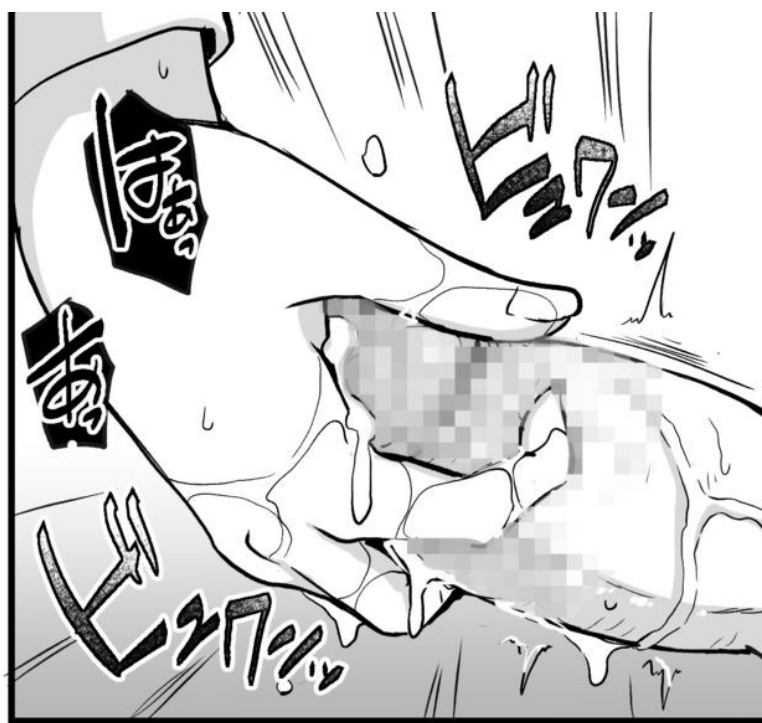
おまんこ
気持ちいい
ですねえい：

私の
おまんこ：

メイドの
おまんこ：

おまんこ
おまんこ
おまんこ
おまんこ







それでも…
やっぱり僕は
ユリアが好きだ…

ユリアは…
所有物なんかじゃ
ない…



結局僕はユリアの誘惑に抗えず
あれから何度か
性欲処理を頼んでしまった…

ユリアの手慣れた
性処理の手腕に
溺れるたびに…

それを会得した
経緯がふと
頭をよぎる…



段々と…

わからなくなってきた…



本当に…
いつでも遠慮なく
セックスを申し付けて
よろしいのですからね…

けれどそれが本当に
恋愛感情なのか…
ユリアの言う通り
ただの情欲なのか…

そもそも
どちらもさして
違いなどないのか…

若様…



どっぞどっぞ...
若様...

ふん

ふん



しかしながら
直接匂いを嗅いで
オナニーをしたい
だなんて...

そこまで仰るなら
もうセックスを
お申し付け下されば
よろしいのに...



昨晚の入浴後から
この夕方まで
厚手のスカートの下で
蒸らされた下着です...

若様のお好みに
濃いメスの薫りに
仕上がっている
と申します...

ふん

ふん



やはり男性が
自慰に耽るお姿は
お可愛い
愛おしいですね…

お可愛いです
若様…

ほっ



私のおまんこの匂いを
まるでワンちゃんみたいに
クンクン嗅いで…

ガチガチに勃起した
おちんちんをおまんこに
ズボズボ出し入れするの
想像しながら…

おまんこの代わりに
寂しく自分のお手々で
握りしめて
必死に上下に
シヨシヨシヨシヨ…

たちまち頭の中が
気持ちいいで
いっぱいになって
精液びゅるびゅるお漏らし
しちゃうんですね…

まあ…
女性のオナニーも
頭の中を気持ちいいで
いっぱいにして…

必死におまんこを
スリスリくちゅくちゅ
するだけです
あまり違いは
ありませんが…

シヨ

シヨ

シヨ

ほっ

シヨ

ほっ

シヨ

ほっ

シヨ

ほっ

シヨ

ほっ

シヨ

シヨ

シヨ



よろしければ…

私が快楽を貪り
必死に股間を
こすり上げる…

浅ましい
自慰行為の様子を…

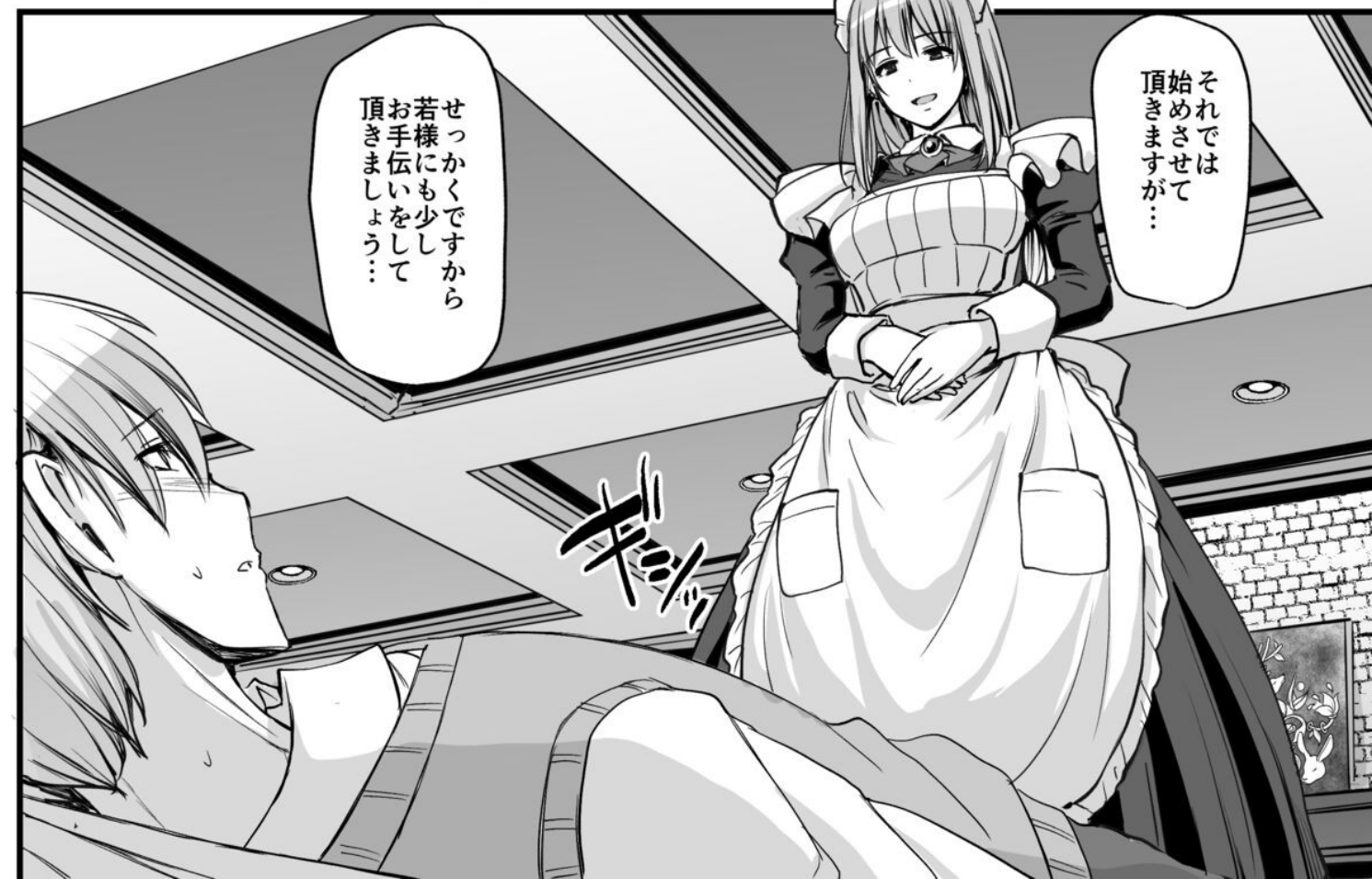
み…見たい…

ユリアのオナニー…

ご覧に
入れましようか…

ふふ…
それではこちらに
横になってください…

チリッ



それでは
始めさせて
頂きますが…

せっかくですから
若様にも少し
お手伝いをして
頂きましょう…

チリッ

失礼致します

えっ!?

アユ…ユリアの
アソコが…

今日は若様のお顔を
指の代わりにして
オナニーさせて
頂きますね

!!

僕の顔にっ…!

高貴な若様のお顔に私の汚れた股座を擦り付けるなんて…

とてもとても恐れ多い限りですが…

若様のペニスはともにお喜びのようですので…

このまま続けさせていただけますね…

憧れのユリアのアソコが僕の顔に…

柔らかい感触に押しつぶされながら呼吸をすれば…

今まで嗅いでいた脱いだ下着とは比べ物にならない濃厚なユリアの薫りが脳を痺れさせる…



申し訳ありません
若様…

ああ…



若様のお鼻が
クリトリスに
当たって…

ふふっ…
気持ちいいです…



こんな
卑しいメイドを…

どうかお許し
くださいませ…



欲しくなって
しまいました…

私…
もっともっと…



!!



いかがですか
若様…

下着越しではない
女性のおまんこの
匂いと感触は…

これが…
おまんこ
女性器…

モ

モ

初めて見るそれは
まるでなにか
別の生き物のように
妖しく蠢き…

ヒクッ

ヒクッ

花びらのように
赤く蜜を纏い
芳香していた…

もっと…もっと
よく見たいのに…！

ふふ…
くすぐったいです

私も今すぐに若様の
オナニーのお手伝いを
致しますからね…

押しつぶされて
近すぎて
見えない…！

モ
モ
モ



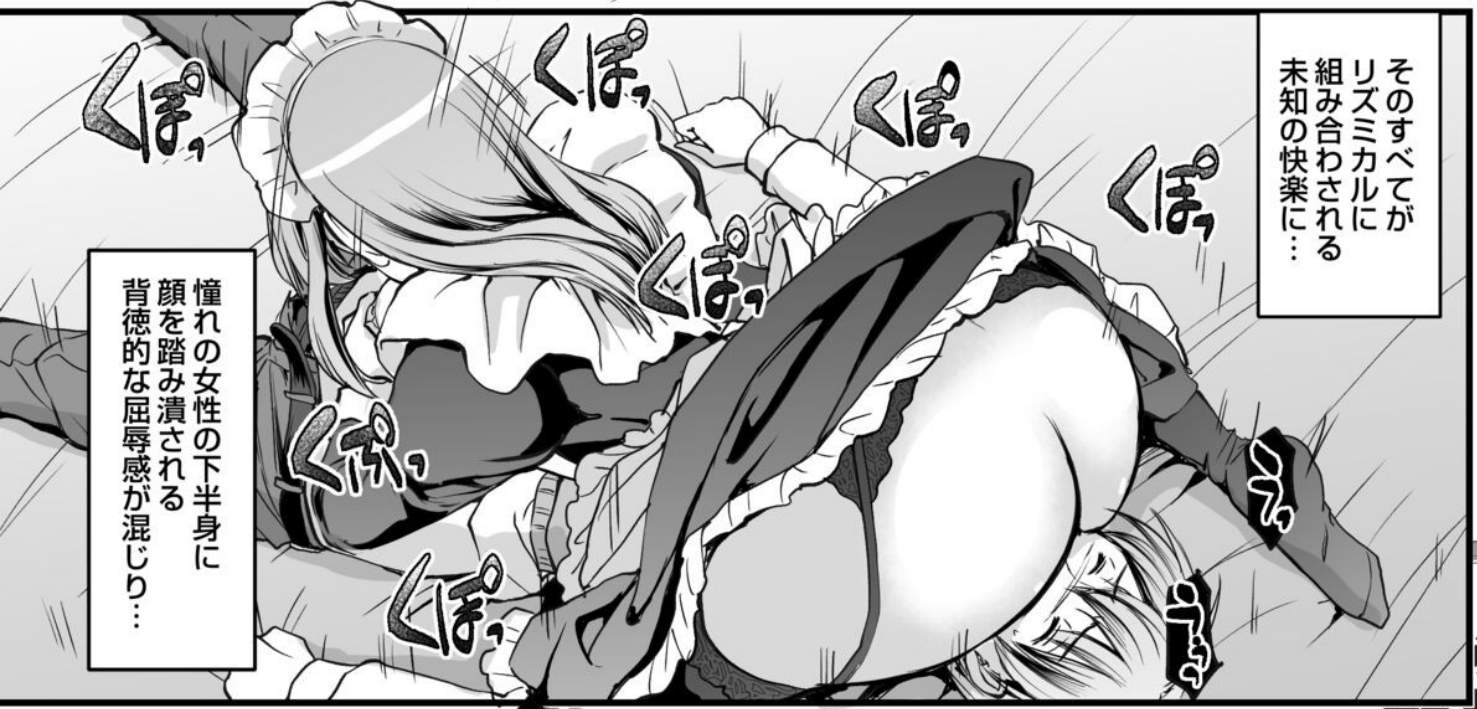


龟头や
竿の敏感な所を
攻める舌と指先の
シャープな快感…

そしてペニスに
巻かれた下着が
さわさわと
鼠径部や会陰部を
刺激する…



柔らかい唇が…
唾液にまみれた
龟头を包みこむ
じんわりとした
快感…



そのすべてが
リズムカルに
組み合わせられる
未知の快楽に…

憧れの女性の下半身に
顔を踏み潰される
背徳的な屈辱感が混じり…



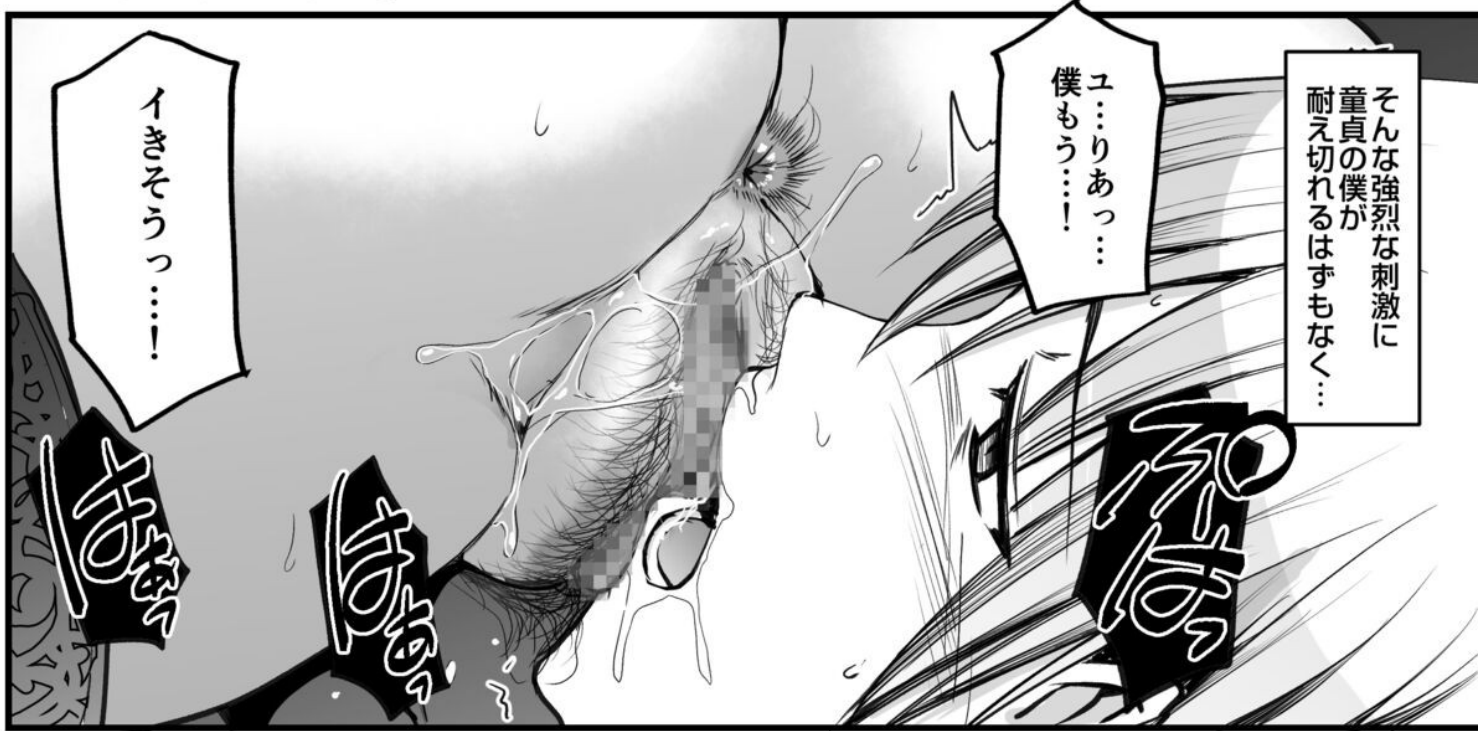
秘肉に鼻まで塞がれ
窒息しそうになる
ちよんどのその
タイミングに…

ユリアは少しだけ腰を
持ち上げ呼吸をさせ
僕の鼻腔を再び
メスの薰りで満たす…



許される呼吸は
好きな女性の
メスの匂いのみ...

とろけるような
口淫の快楽に
溺れながら...



いきそうっ...!

ユ...りあっ...
僕もう...!

そんな強烈な刺激に
童貞の僕が
耐え切れるはずもなく...



さして
差し上げますね...

それでは
今からとっておきの
キモチイイお射精を...

ふふっ...
もうお射精
しそうですか...



あまりに突然で
追いつかない
思考の中…

ユリアの
フェラチオは
激しさを増し…



僕の射精感
容赦なく
昇り詰める…

僕は惨めに
射精して
しまうのだ…



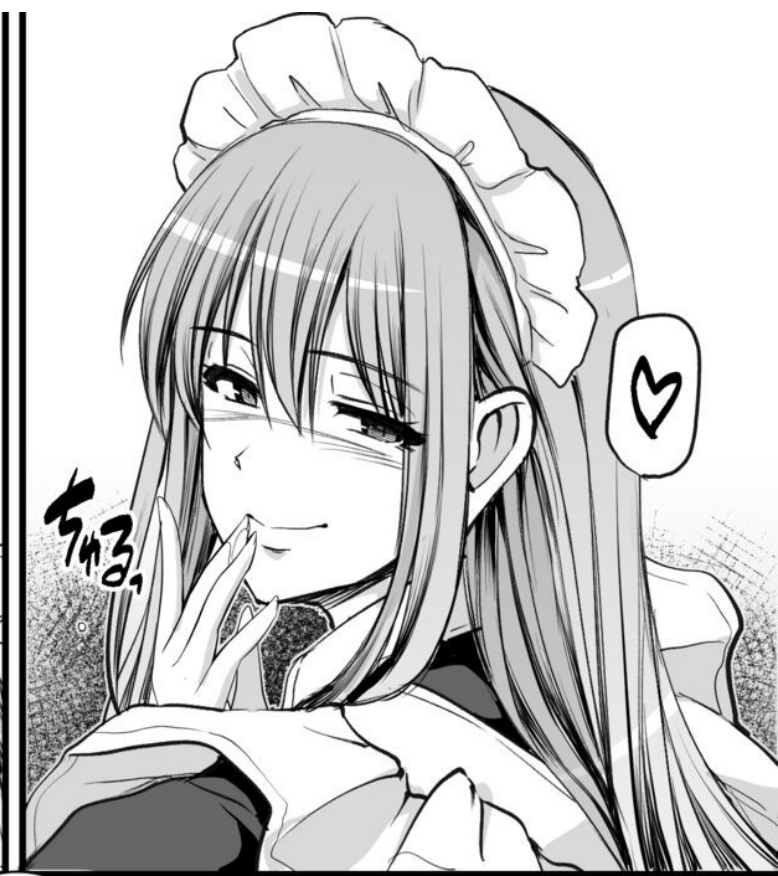
ほろ苦く
少し塩辛い
憧れの女性の体液に
溺れながら…

こんな射精を
覚えてしまったら…

僕はもうきつと…







私は若様がお望みのような女性とは程遠いのです…

そろそろご理解頂けましたか若様…？

清楚な私など抱いておられた幻想…



私は毎晩自慰行為に耽るほど性欲が強いですし…

仕事をしてもセックスのことばかり考えてしまうほどにセックスが好きです…

果てはお仕える尊い身分のお方に自分の体臭を嗅がせて興奮し…

小水で溺れるお姿に背徳を覚えるような変態女なのです…

そんな
壊れた売女の
メイドは…

ラブド
性処理人形として
使うのが妥当では
ありませんか…？

尽きることなく
日々湧き出る
狂おしく悩ましい
性衝動を…

欲望に任せ思いのまま
ぶつけて解消できる
都合の良い異性として…

さあ私に
命じてください…

お夜伽を…
セックスを…

二人で快楽を
貪り合いましょ…

私の膣内…





僕とセックスしろ…

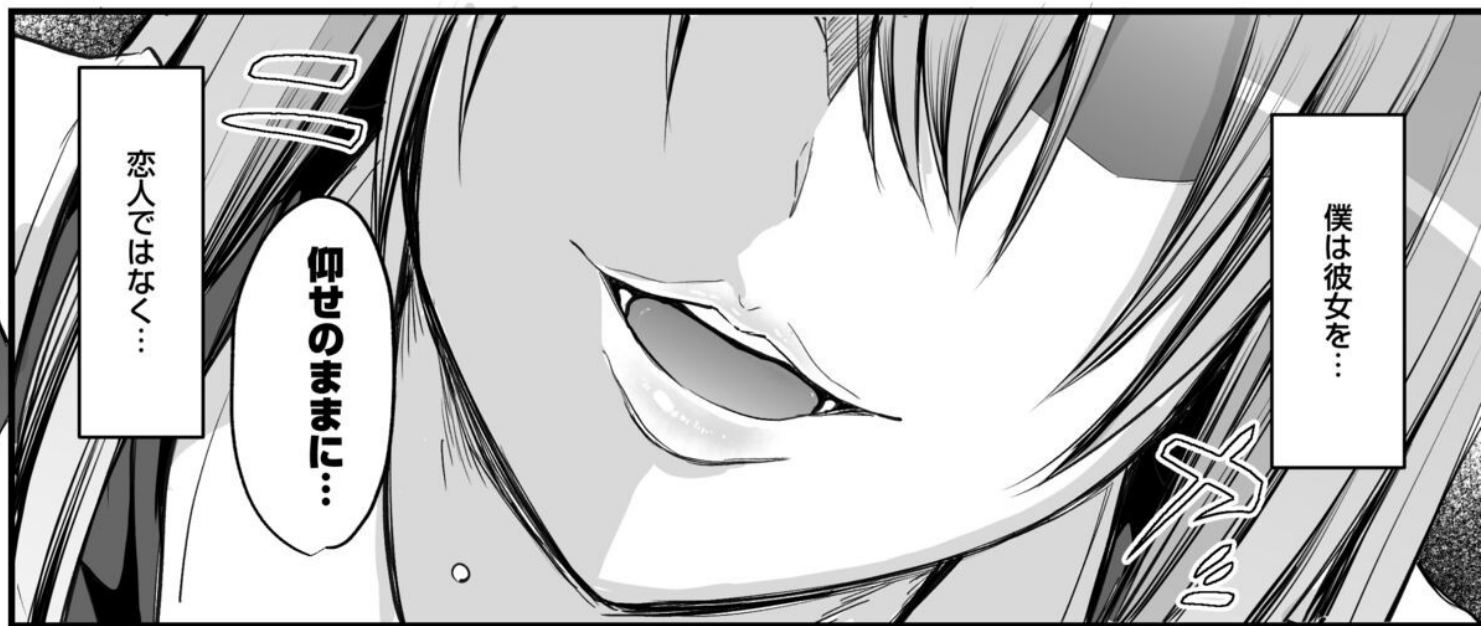
落胆と歓喜…諦観と期待が入り混じりながら…



ユリア…

僕と…

むせ返るほどに濃密な彼女の蜜の薫りの中で…



仰せのままに…

恋人ではなく…

僕は彼女を…



ご主人様…

僕の所有物にした…

ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ

ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ

ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ、ぐちゃ



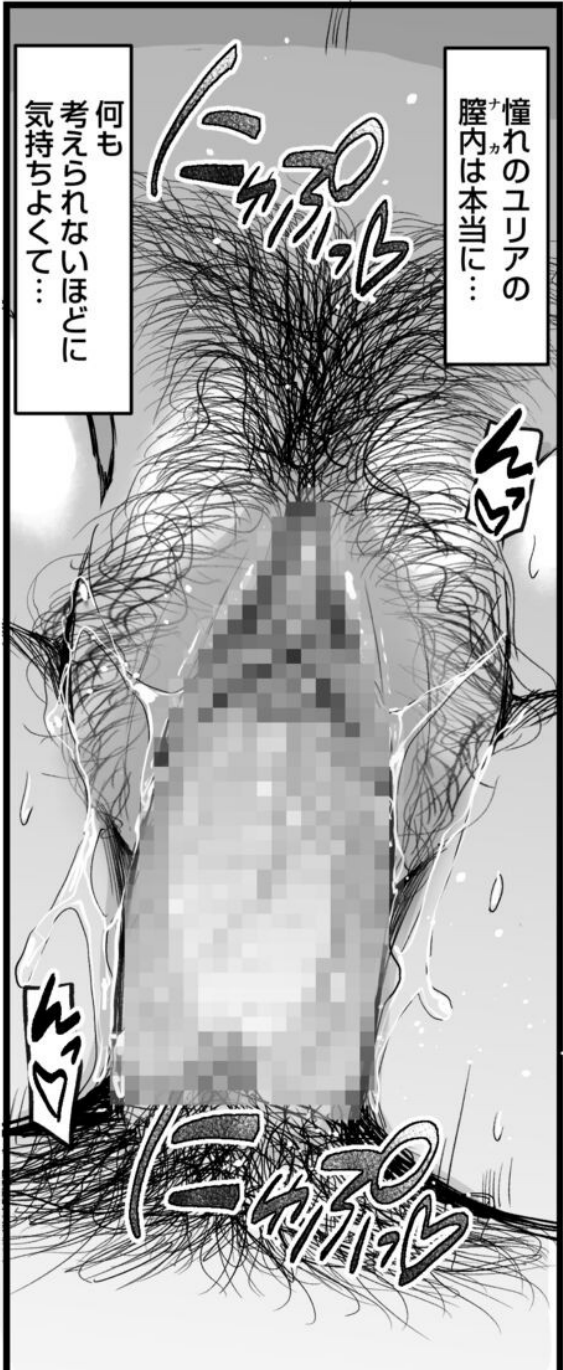


おめでとうございます
ございます
若様…

これで若様も
立派な大人の男性と
なれましたね…

もちろん若様は
なんの気負いも
する必要はありません…

御曹司の筆下ろしに
メイドをあてがうなんて
古い時代からよくある
ことなのですから…



憧れのユリアの
膣内は本当に…

何も
考えられないほど
気持ちよくて…



今はただ
何も考えず…

女性の膣の
感触に酔いしれて
くださいませ…



ユリアにされるがままの
情けない童貞卒業も
気にならないほどに
僕は…

ゆっくりとした動きで
ペニスをじっくりと
快楽を与える
ユリアの騎乗位の
虜になった…



フェラチオとはまた違う
女性の膣内の快感…

唾液よりも濃い
愛液にまみれた膣口が
ペニスを根本まで飲み込み…



ああっ…
ユリアっ…

僕…もうっ…



舌先や指先とは違う
膣壁のヒダやザラつきが
ヌルヌルと亀頭に絡みつき…

口唇や手で握るのとは違う
膣肉の柔らかかな圧迫感で
ペニスをしごきあげる…



はい…
構いませんよ…

そのまま…
お射精頂いて…

せっかく
生まれて初めての
セックス
なので…

やはり女性の
膣に
射精しなければ…

そんなユリアの言葉に
促されるように…

コンドーム無し
の膣内の快楽に
蕩けていた
僕の頭は…

射精したい
射精したい
射精したい…と…

すぐに射精の事で
いっぱいになり…





ユリアの膣ナカに
精を放った…



ご立派です若様…

こうして
女性の膣内に
射精し…

自らの
所有物である
証を刻む…

それでこそ…
大人のオスと
言うものです…

一応：
申し上げて
おきますが…

若様にいつでも
お使い頂けるよう
日頃から避妊薬を
服用しておりますので…

妊娠を案ずる
必要はありません…

この穴はもう
若様専用の
オナホールです…

ですから
お好きにだけ
お使いください…

ああ…なんだ…
初めてだから
特別という
ワケでもなく…

僕が
ユリアにとって
特別という
ワケでもなく…

妊娠しないと
わかっているから…
なかだちして
膣内射精させて
くれたのか…

お気の済むまで
ここに…

精液を吐き出して
くださいませ…

もういいんだ…

彼女はもう僕の
所有物なのだから…





この嬌声は…

本物
なのだろうか…



生きてきた
世界の違いの
ようなものを…

ふと考えるように
なってしまった…

今度は彼女との
経験の差
みたいなものを…

少し余裕が
出てくると…

あれから
二回ほど射精し…



所有物として…

僕を悦ばせるための
単なる演技なのではないか…

あれだけの性技を
身につけるには…

いったい何人の男と
いくつの夜を
過ごしたのだろうか…

何も知らず香氣に
「清楚なユリア」に
恋をしていた自分が…

情けなくて
悔しくて…

憂いを
振り払うように…

ただひたすらに
ユリアの膣の感触に
身を委ねた…

私…
はしたなく
本気で乱れて
しまいそうです…♡

ペニスも
ご立派ですし…

ユリアの初めてが
僕じゃないという現実を
突きつけられて
いるように感じる…

そんな甘言も
今の僕には…

とても
初めてとは思えませんが…♡

お上手です
若様ア…♡

くそっ…
僕のモノだ…!
ユリアはもうっ…!

僕のモノだ…!
僕のモノだ…!
僕のモノだ…!



僕はもう
いつでも
使っているんだ…

憧れていた
ユリアの女性器を…

いいじゃないか…
ユリアがどんな女
だったとしても…

好きだなんだと言っても
結局僕は最終的に
ユリアとセックスが
したかったんだから…

余計なことなんて
考えるだけ無駄だ…

お互い好き勝手に
性器をこすり合わせて
気持ちよくなれば
いいじゃないか…





僕だけじゃないなんて…

ユリアの腔内^{ナカ}に入ったのが…



それでも…
やっぱり悔しい…

この淫らで可愛い
ユリアを知っているのが
僕だけじゃないなんて…



ユリアは僕だけの
性処理メイドだっ…!!

もう誰にも…
渡すもんかっ…!!



使つてやる…！
これからずっと…！
何度も…何度も…！

恋愛感情なんて
必要ないんだ…！



申し訳ありません…
若様…

私が…若様の
お望みのような…
清らかな女では
なくて…

私はもう
心も身体も汚れ…
壊れてしまつて
います…



それでも…
本当に
嬉しかったのですよ…

若様に…
好きと言つて
頂けて…

本当に本当に…
嬉しかったのですよ…

ユリア…

ああユリア……！
やっぱり好きだっ……！

ユリアにどんな過去が
あってもいい……！

僕はユリアを
僕の恋人に
したいんだっ……！

好きだ……
好きだ……
好きだ……
好きだ……

ユリアっ……
僕のユリアっ……！！







彼女の膣内に
ありつただけの精液と
想いの丈を
放ちきつてから…

彼女の微笑みを見て
僕はようやく気がついた…

ヒッ♡

ヒッ♡



僕はすでに
狂わされていたのだ…

淫靡に薫る
彼女の花卉の薫りに…



おもちゃ
所有物に
なったのは…

僕の方なのだ…

あとがき

最近すっかり同人エロコンテンツのメインストリームとなった
ドすけべ同人音声作品ってめちゃくちゃメイドさんが多いんですよ。

正直メイドさんってエッチなキャラとしてすげえ都合がいいんですよ。
歳若い女の子なのに手コキもフェラも騎乗位もなんかめちゃくちゃ上手いのは
「メイドとしての嗜み」とか「ご奉仕精神」というご都合主義で万事解決ですから。

いや、言うまでもなく僕はめちゃくちゃ大好きなんですよ。
メイドさんが淫語でたくさん責めてくれるヤツ。
「はい坊ちゃま♡ぴゅっ♡ぴゅっ♡ぴゅ〜っ♡」とかそんなんで
何度中年男性からシヨタに心の回帰を果たした事でしょうが。

複数人のメイドさんに左右の目元で「おまんこ♡」を連呼されるヤツとか
メイドさんのおしっこにこだわり抜いた音声作品とか
果てはメイドさんのパンツを洗濯室から拝借したのがバレて…という
僕の大好きなシチュエーションまで、
本当に豊富なシチュエーションのメイドさんドすけべ音声
日々たくさんリリースされていて、正直一生かかっても聴ききれないと思います。
本当に幸せな時代ですね！

しかしそんなメイドさんの同人音声で又いた賢者タイムの僕には、
いつもとある考えが浮かんでおりました。
「この怒涛の淫語と超絶テクで攻めてくるエッチで優しいメイドさんは、
いつどこでこんなテクニックを身につけるんだろうな…」と

そんな僕のドすけべメイド音声作品への愛と
毎度おなじみのヒネくれた視点から
今回の漫画は出来上がりました。

「床上手の処女」なんてモノは存在しないんですよ…ふふ…(暗黒微笑)

話は変わって。
前回の作品「メイドのおしごと。最終章」でいっぱい貴重なご意見(オブラート)を賜ってしまい
「いいよ！！もう漫画なんて描かぬーよ！パーカパーカ！！」と
インターネットからも逃亡し、UnityとLive2Dを勉強して
ゴソゴソとゲームなんかを作っていたんですが、
3ヶ月位やったトコロで「コレいつ完成するかわかんねえな…」となり。
ゲーム作りの制作費稼ぎのために結局漫画に戻ってきたのが今回の作品でもあります。

最初は「立ち絵を何個か作るだけで何コマも何コマも描かなくていいなんてゲーム最高じゃん…！！」
って思ってたのに、ちょっと離れてから久々に向き合うエロ漫画制作はやっぱり楽しかったです。

今回はシブリオとかあまり難しいことを考えずに自分の性癖をただただ詰め込んだ
エロ漫画らしいエロ漫画がコンセプトだったのも良かったんだと思います。

過去最長の期間(6ヶ月)インターネットから逃亡したおかげが
インターネットとの付き合い方みたいなモノも見直せた気がするし、
これからまたぼちぼちとインターネットも漫画の仕事も再開していこうかなと思ってます。

次の作品が何になるにせよ、
基本的に「自分が描きたいものしか描かないし作りたいものしか作らない」というスタンスは
貫いていく予定ですので、引き続き生暖かい目で見守ってやって下されは幸いです。

デューーエルサイト限定！

塗りたいたコだけ塗っちゃった
おまけカラーページ！



若様は
本当はただ私と
セックスが
したいのです…

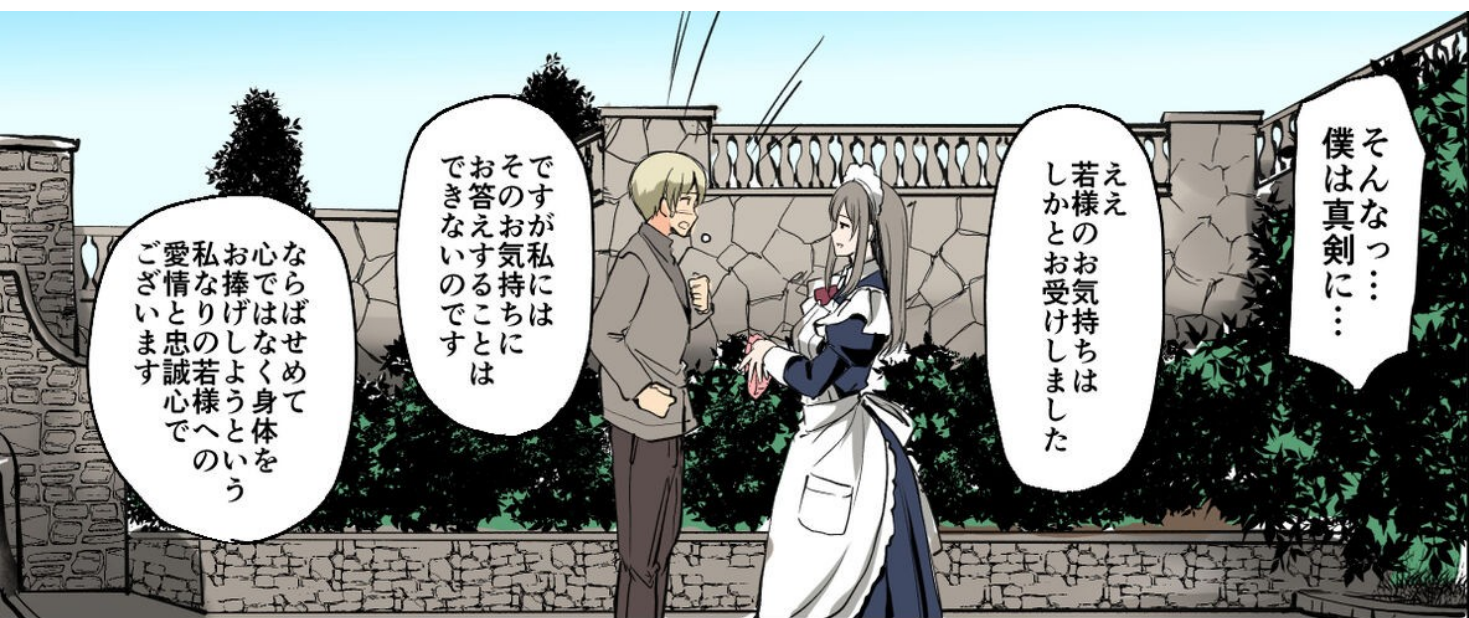
想像して
いたのでしょ…？

毎晩…毎晩…



この汚れた布が
包んでいた…

私の女性器を…



そんなっ…
僕は真剣に…

ええ
若様のお気持ちは
しかとお受けしました

ですが私には
そのお気持ちは
お答えすることは
できないのです

ならばせめて
心ではなく身体を
お捧げしようという
私なりの若様への
愛情と忠誠心で
ございます



気持ちの整理が
できたら…

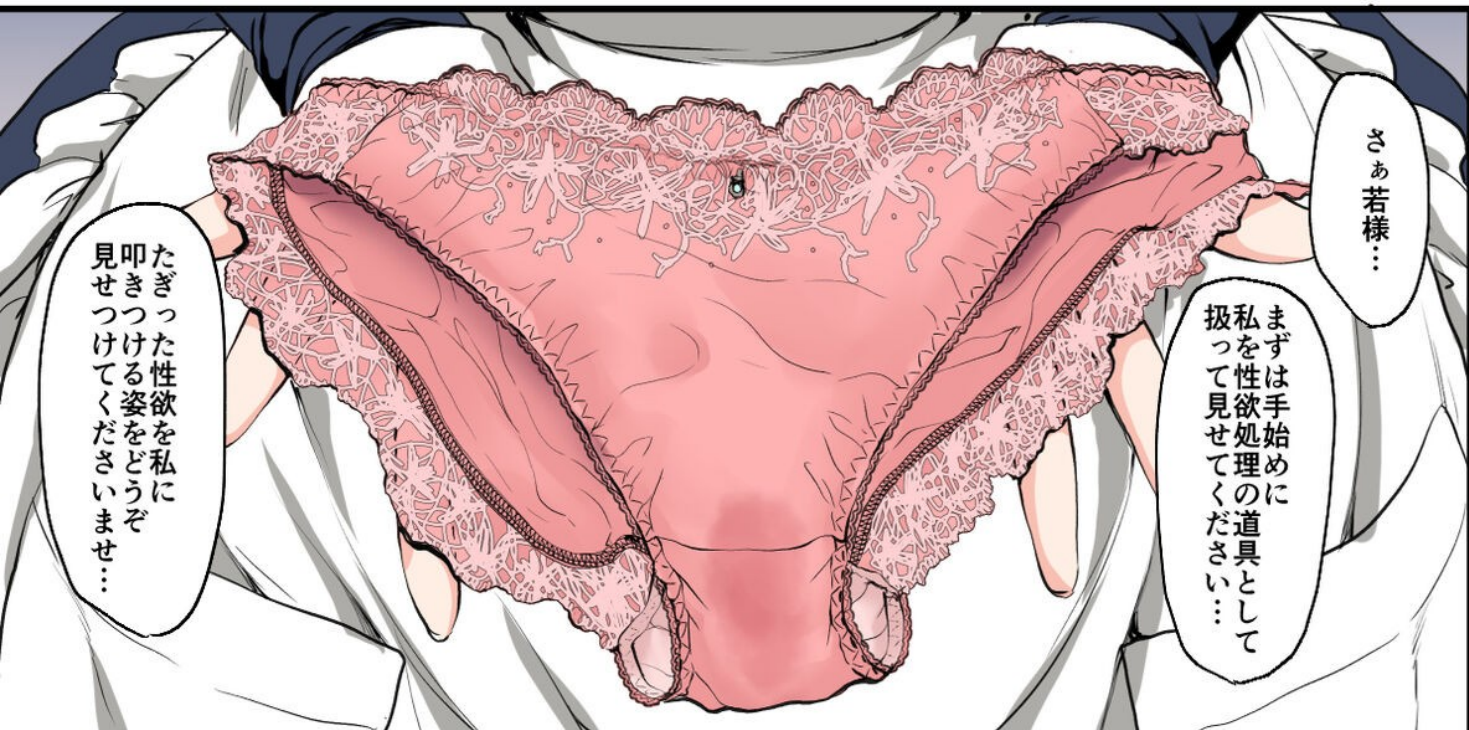
いつでもセックスを
お申し付けください…

喜んで若様の
初めての穴と
なりましょう…



メイドの私など
所詮この薄汚れた
布切れと一緒に…

ただの
モノなので…



さあ若様…

まずは手始めに
私を性欲処理の道具として
扱って見せてください…

たぎった性欲を私に
叩きつける姿をどうぞ
見せてくださいませ…



お恥ずかしながら
実は私…
昨晚自慰行為に
耽っておりました…

下着の上から
クリトリスを指で
激しくこすり…
アクメに達して
しまいました…



いかがですか
若様…

今日の私の
股布の薫りは…



今日は有り難くも
こうして直接私を
オナペットにして
頂いておりますし…

せっかくですから
ご覧になって
頂きましょう…



それに今朝は朝から
少し忙しかったので…

汗の匂いも
強いかもしれませんが…

愛液や下り物の放つ
メスの薫りに
お小水や汗の
ツンとした匂いが混じる…

浅ましいメイドの
股布らしい臭いは
強烈な淫臭は
お気に召しました
でしょうか…?



そんな品のない
淫臭を漂わせる
卑しいメイドの
女性器を…

残り香を嗅ぎながら
若様が何度も想像した
私のおまんこを…

自然のままにだらしく
びっしりと生えた陰毛を…

そしてこれから
若様の所有物となり
自由に精を吐き出していい
メスの生殖器を…



あらあら若様…
途端にお手々の上下が
激しくなつて…

そんなにも息荒く
股布の匂いを
吸い込んで…

この光景を
お気に召して
頂けたのですね…

若様の所有物として
大変光栄です



メイドである
私の気持ちなど...

そんな余計な事は
考える必要
ありません...



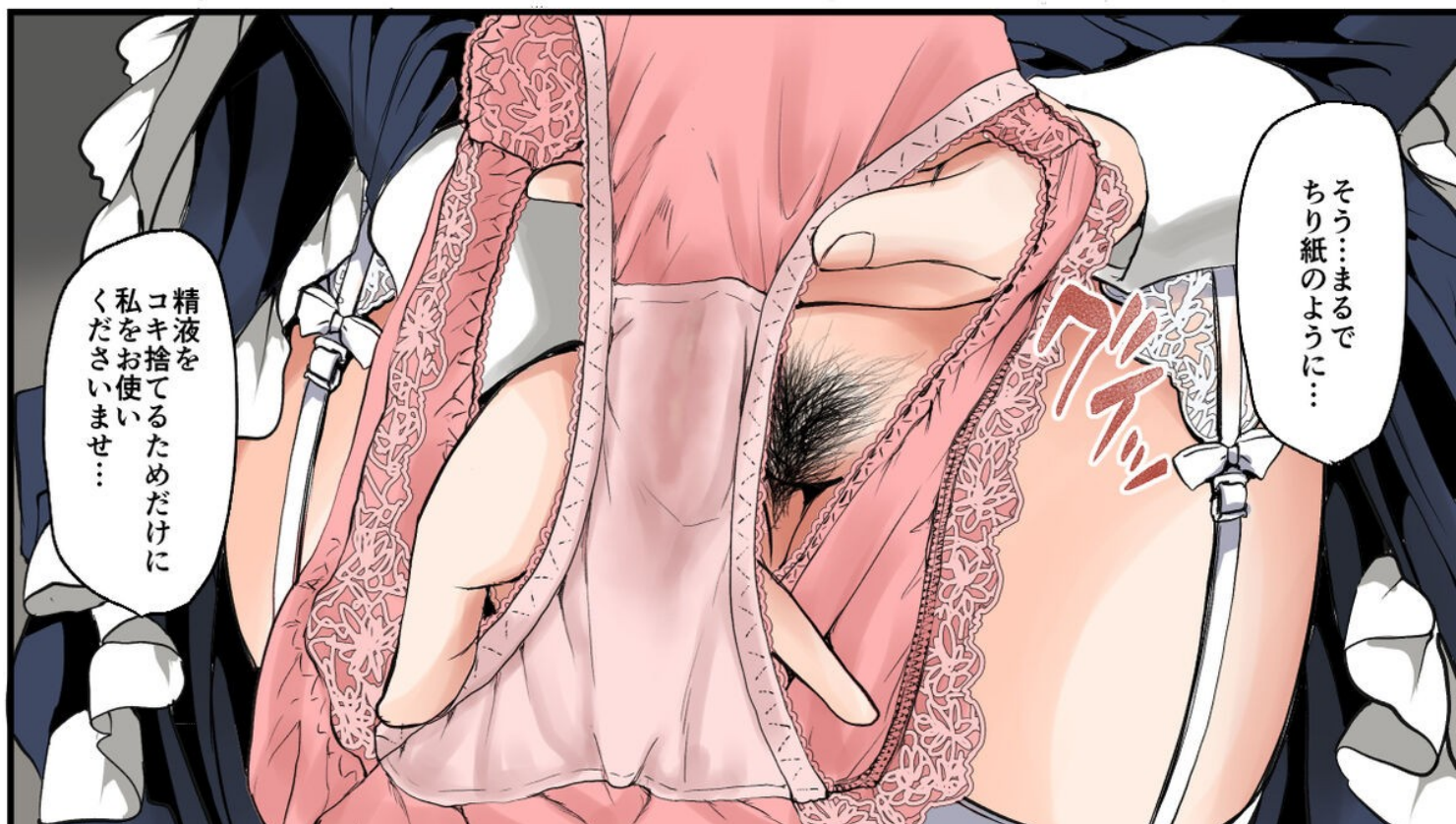
若様がお望みなら
いつでも...

ここを使って
いいんですよ...



そして毎日溜まった
精液を私にぶちまけて
ください...

若様はただ
私を使って
気持ち良くなれば
良い...



そう...まるで
ちり紙のように...

精液を
コキ捨てるためだけに
私をお使い
くださいませ...



好きな女性の目の前で
自慰行為を見られながら
好きな女性の下着に
射精する…

突然のこの倒錯した
シチュエーションに…

いつも清楚で
知的なユリアが
流暢に発する
淫語の数々に…

混乱し圧倒されながらも
身体は性欲に正直で…



さあどうぞ…

私に勤付かれるのを
気にせずコレを存分に
汚してみたかっ
たでしょう…？

見せてくださいませ…
間接膣内射精を…

この汚れた股布の上で
混じり合わせましょう…
若様の体液と私の体液を…



僕はたまたま
ユリアの下着の股布に
射精した…



すごいですね…

こんなに
たくさんの射精を
して頂けて
光栄です…



嬉しいです…
若様…

ユ…ユリア…
その…!!

こんなこと…
僕本当は…!!



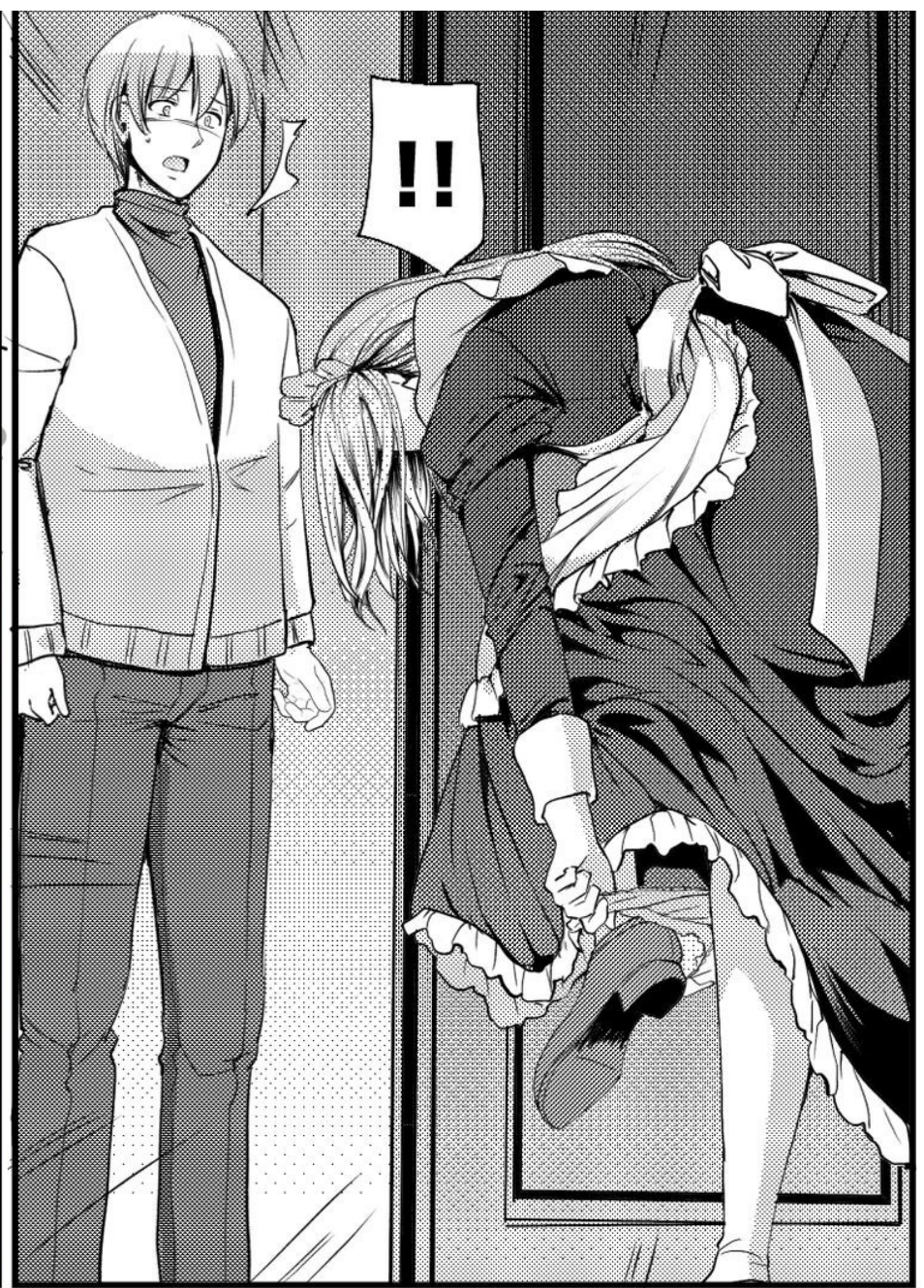
私とのセックスを
想像して…

私のことを考えて…

気持ちよくなって
くださったのですね…



ユリアが...!



!!



僕の精液が付いた下着を...!



あとがき(DLsite追記版)

塗りたいとこだけ塗ったという触れ込みのおまけカラーページですが、本当はパンツとかおまんことか全部塗りたかったです。ていうかそもそもこの漫画カラーで出したかったんですよ、やっぱりパン染みはカラーで輝くと思うんで。ちょっとおしっこが乾いたような黄みがかった染みと中心部の愛液染みにちょっぴりついたオリモノ汚れ…それが再現できるのはやっぱりモノクロではなくカラーなんですよね。という訳でちまちま隙を見て塗っていつかカラー版も出せたらなとは思ってます。

とりあえず今は「メイドのおしごと」を古巣であるHIT出版様から商業単行本化して頂けるのとことでその単行本作業に追われています。

それが終わったらこのおまけページのオチに使った「最速送迎メイドバトル」のリポート版に着手する予定です。…前のあとがきで書いた制作中のゲームは一体もういつになったら完成するのやら…

1年くらい漫画を描かずに生活できる生活費が稼げなきゃ実際無理かな…現実は厳しいですね…ウウツ…もう立派な中年なので徹夜とか無理も効かなくなってきているし…いろいろと考えて動かねば…それではまた次のなにかでお会いしましょう。